

吸収森林は二酸化炭素の防止の
など、私たちが果たして
大切な役割を果たして
ている。そのためには、森林
に人の手を加える「伐
つて、使って、植えて、
育てる」のサイクルを
回すことが必要で、木
材の利用拡大や森林へ
の理解を深める取り組み
が進められている。
みやま自治体は、住宅
や家具等への国産材の
利用を推進するとともに
に、積極的に公共施設
に木材を使用している。
三重県内では、三
重県庁による「三
重県内建築物のうち主要構
造部に木材を使用した
割合(床面積ベース)は、
2018年度平均
19.9%、3年度平均
で19.9%、3年度平均
以下に限れば、3.4%とな
り、ともに全国平均(13.
6%、2.2%)を上回
っている。また、その割
合は、近年、上昇傾向に
あり、木の使用量を増
やす目的だけでなく、
木の持つ効果に着目
した事例も多い。
森林の中で体験活動
や木の触れる機会
の提

供を通じて、森林への
理解や木材への親しみ
を深める「森林環境教
育」や「木育」といった
活動も広がっている。
三重県は16年度に森
林環境教育や木育、森
づくりの総合窓口とし
て、指導者の養成やコ
ーディネーター等を担う
「みえ森づくりサポー
トセンター」を設置し、
本格的に活動の推進を
開始。20年10月には、そ
れまでの取り組みを整
理して、職業教育や消
費者教育の要素を取り
入れた「みえ森林教育
ビジョン」を策定し、子
どもから大人向けまで
体系的な教育を展開し
ている。また、21年11月
には、菰野町内の「三重
県民の森」に木製の遊
具や玩具で遊べる「み
え森林教育ステーション
」を設置するなど、森
林教育に気軽にアクセ
スできる場の整備も進
めている。
毎年10月は「木材利用
促進月間」として、森林
や木材に関するイベン
トが各地で開催される。
この機会に森林が果た
す大切な役割を考えて
みては。